

さまざまな切り口で 再編・海外拡大



先進技術を装備しつつ、価格は一般住宅並みに

トヨタホームがスマートハウス 車との連携に技術投入

11年の住宅業界は東日本大震災に端を発する電力不足問題の中で、住宅の電力需給を最適制御し、停電時の非常用電源にも利用できる大容量蓄電池を搭載したスマートハウス（省エネ型住宅）が相次いで発売された。住宅メーカー各社がスマートハウスの事業化を進める中、トヨタホーム（名古屋市東区）は車と住宅双方を手がけるトヨタグループの強みを生かした住宅で差別化する。

トヨタホームは環境配慮型住宅（スマートハウス）「シンセ・アスイエ」を発売。先進技術を装備しつつ、価格は一般住宅並みに抑えられた製品だ。非常に時々プラグインハイブリッド車（P HV）や電気自動車（EV）から住宅に電気を供給できる車と連携させたスマートハウスは国内で初めてという。トヨタ自動車の開発手法や技術力を注ぎ込んだスマートハウスで、拡販を狙う。

主力事業深化へ

内外の顧客志向に対応 競争力重視 共通モデルも

主力事業の深化で業績向上を図る企業もある。日本空調サービスでは工場や病院の設備管理やシステム運用の受注が好調

2012年3月期は売上高3億円と過去最高を見込む。

「少子高齢化でも

200億円と過去最高を見込む。

<p